

称号及び氏名 博士(看護学) 小路 浩子

学位授与の日付 平成28年3月31日

論文名 保健師の職業的アイデンティティの形成プロセスと影響要因
- 市町村保健師のライフストーリーから -

論文審査委員 主査 上野 昌江
副査 町浦 美智子
副査 長畑 多代
副査 大川 聡子

論文内容の要旨

【目的】

本研究は、市町村保健師が認識している保健師としての職業的アイデンティティ（以下、職業的 ID）と市町村保健師の職業的 ID の形成プロセスとその影響要因を明らかとすることを目的とした。

【方法】

研究協力者：A 県内の市町村に勤務する入職後 11 年以上の保健師 19 名とした。**研究デザイン**：質的記述的研究とし、ライフストーリー法を用いた。**データ収集期間**：平成 26 年 7 月から平成 27 年 6 月。**データ収集方法**：半構成的面接を 1 人につき 2 回実施した。補足資料として、研究協力者の所属自治体が公表している保健関連データ、沿革等についての既存資料を収集した。**データ収集内容**：1 回目の面接では、保健師になる前から現在までの人生及び職業経験について聞き、2 回目の面接では 1 回目の面接の逐語録から職業的 ID の形成に関連するエピソードについて職業意識を聞き取った。**分析方法**：面接の逐語録をデータとし、保健師としての職業的 ID の形成に関する語りに焦点をあてて分析した。市町村保健師が認識している職業的 ID については、入職するまで・新人期・前期中堅期・後期中堅期・ベテラン期に分けて抽出し、サブカテゴリー化、カテゴリー化した。市町村保健師の職業的 ID の形成プロセスと影響要因については、複線径路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model: TEM 以下 TEM) を用いて分析した。職業的 ID のカテゴリー、サブカテゴリーを用いて、それらを時系列に並べ TEM 図を作成し、時代背景や職場環境等の社会的要因と関連付けながら分析した。

【倫理的配慮】

研究は、大阪府立大学看護学研究倫理委員会で承認を得て実施した（26-23）。

【結果】

研究協力者：経験年数の平均は 27.2±3.4 年、平均年齢は 51.4±3.9 歳であった。

市町村保健師が認識している職業的 ID：市町村保健師の職業的 ID は“保健師としての意識”“行政職としての意識”“住民への意識”の 3 つの側面から捉えられた。保健師としての意識では、新人期において「個への支援を集団につなげ、地域に広げる役割を担う」、前期中堅期において「予防的視点を活かして市の施策に関与する」、後期中堅期において「法律の後追いではない本当の地域のニーズを見出し施策につなげる」が見出された。行政職としての意識では、新人期において「専門性を尊重しない行政組織への反発意識」、前期中堅期において「事務職との協力体制のもとに制度を構築する」、後期中堅期において「行政手腕を身につけ、政策・施策づくりに参画する」が見出された。住民への意識では、新人期において「住民の代弁者として住民に寄り添い支援する」、前期中堅期において「地域や個のニーズから生まれた活動をとおして住民の主体性を育てる」、後期中堅期において「住民と協働し、地域づくり・事業創出を行う」が見出された。ベテラン期においてはこれら 3 つの側面が融合し「保健師と行政職の意識を融合し公衆衛生的視点を発揮して、住民への思いを起点とした政策を打ち出す」が見出された。

職業的 ID の形成プロセスと影響要因：市町村保健師の職業的 ID の形成プロセスは、作成した TEM 図の職業的 ID の形成における転換点の焦点化により、第 1 期から第 4 期に分かれた。第 1 期では、保健師という職業への認識と将来性への期待、第 2 期では、公衆衛生看護の担い手としての役割意識の自覚、第 3 期では、組織での役割の発揮と専門職としてのキャリアと自信の獲得、第 4 期では、行政職の視点と保健師の視点の融合が示された。次に、保健師を選択した時期から保健師としてベテラン期に至るまでの径路の転換点である【保健師の選択】【ロールモデルとの出会い】【個から集団・地域へと地区活動を発展させる】に焦点を当て、保健師の経験のプロセスをⅠ型：積極的選択活動発展型、Ⅱ型：積極的選択組織忠実型、Ⅲ型：消極的選択活動発展型、Ⅳ型：消極的選択日常業務埋没型の 4 つに類型化した。Ⅰ型、Ⅲ型は個から集団・地域へと地区活動を発展させた経験が転換点となり、ベテラン期において保健師と行政職の意識を融合させた職業的 ID を認識していた。Ⅱ型は積極的な気持ちで保健師を選択していたが、地区活動発展の経験が少なく、組織への従属が強かった。Ⅳ型は地区活動を発展させた経験が乏しく、ベテラン期において職業的 ID の揺らぎを感じていた。【個から集団・地域へと地区活動を発展させる】経験にはロールモデルとの出会いが影響し、それが職業的 ID の形成に影響していた。

【考察】

市町村保健師の職業的 ID が保健師・行政職・対住民の 3 側面から成り立っていたこと、ベテラン期においてその 3 側面が融合し行政組織の中で専門性を発揮するという意識に到

達していたことは、本研究により示された市町村保健師の職業的 ID の特徴である。中でも、行政組織への反発意識を保健師としてのキャリア形成と組織への貢献に昇華させ、組織からの承認と評価を得る中で根付かせてきた行政職としての意識化は市町村保健師の職業的 ID の大きな特徴であり、本研究の新たな知見である。また、4 つの類型化により、保健師という職業を選択する動機、個から集団・地域へと地区活動を発展させた経験を有することがベテラン期の職業的 ID に影響すること、【個から集団・地域へと地区活動を発展させる】経験にはロールモデルとの出会いが大きいことが示された。保健師の現任教育において、ロールモデルの存在、地区活動を発展させる経験を持つことが、市町村保健師の職業的 ID の形成において重要な鍵であることが示唆された。地区活動の実践は丁寧な個別支援の積み重ねの結果であり、地区活動をとおして築き上げた住民との信頼関係と協働関係が市町村保健師の活動の原動力となる。住民の生活を知っているという自信が他の行政職との違いであると自負し、行政職の視点と保健師の視点を融合した専門性の発揮に至っていたと考えられた。

本研究の限界は、研究協力者全員が類似した時代背景のもとで活動していたことから、時代背景の違いによる職業的アイデンティティの特徴については明らかにできなかったことである。今後の課題として、幅広い年代層の市町村保健師の職業的 ID の特徴を捉えて、新人期から管理期にいたるまでの市町村保健師の実践能力の向上に向けた具体的な人材育成プログラムを検討していきたい。

キーワード：市町村保健師、職業的アイデンティティ、ライフストーリー、複線径路・等至性モデル

Key words : municipal public health nurse, professional identity, life story, Trajectory Equifinality Model(TEM)

学位論文審査結果の要旨

地域保健法制定以降市町村保健師の活動領域は、妊婦、乳幼児から高齢者に至るまで全ての年代を対象とした保健事業のみならず介護保険、児童虐待、子育て支援、自殺対策など多岐に渡っており、市町村保健師の職業的アイデンティティ（以下 ID）が描きにくくなっている状況がある。そのなかで、本研究は市町村保健師の職業的 ID とその形成プロセスに焦点を当てた独創性の高い研究である。

研究協力者は市町村に勤務する入職 11 年以上の保健師 19 名であり、市町村保健師が認識している保健師としての職業的 ID および彼らの職業的 ID の形成プロセスとその影響要因を明らかにすることを目的としている。研究方法は、半構成的面接によりデータ収集し、その内容を、職業的 ID については、入職するまで、新人期、前期中堅期、後期中堅期、ベテラン期ごとにカテゴリー化した。職業的 ID 形成プロセスと影響要因については、複線径路・等至性モデル（以下 TEM）を用いて TEM 図を作成し、時代背景や職場環境等の社会的要因と関連づけ分析し、市町村保健師の職業的 ID を“保健師として意識”、“行政職としての意識”、“住民への意識”の 3 側面から捉えた。職業的 ID の形成プロセスは、TEM 図における【保健師の選択】、【ロールモデルとの出会い】、【個から集団・地域へと地区活動を発展させる】という転換点により第 1 期から第 4 期に分けた。そして転換点に焦点を当て、保健師のプロセスをⅠ型：積極的選択活動発展型、Ⅱ型：積極的選択組織忠実型、Ⅲ型：消極的選択活動発展型、Ⅳ型：消極的選択日常業務埋没型に類型化した。Ⅰ型、Ⅲ型は個から集団・地域へと地区活動を発展させた経験を転換点とし、ベテラン期において保健師と行政職を統合させた職業的 ID に至っていた。

本研究から導き出された新たな知見は、市町村保健師の職業的 ID の特徴を、行政組織の中でのさまざまな意識を保健師としてのキャリア形成と組織への貢献に昇華させ、組織からの承認と評価を得る中で行政職としての意識を根付かせていることが見出されたことである。導き出された内容は、今後市町村保健師の実践能力向上のための人材育成プログラムに活用できると考えられ、実践有用性が大いに期待できる。

本論文は、今後の看護学実践に反映できるものであり、博士（看護学）の学位を授与するに値するものであると認められる。